

## 第 139 回技術士包装物流会関西支部研究会議事録

平成 30 年 4 月 15 日  
関西支部長 高垣俊壽  
作成 平 洋二郎

開催日時：平成 30 年 4 月 12 日（木）

《研究会》18：00～19：20 《懇親会》19：30～20：30

開催場所：大阪府門真市 パナソニック企業年金基金「松心会館」

《研究会》2F 研修室「4」《懇親会》大広間

出席者： 合計 31 名

### 研究会：

高垣支部長の挨拶から始まり理事会内容の報告後、技術士試験第二次試験合格者である板垣大介（ロジスティックス）・平田達也（総合技術監理）、新理事 3 名（平田、賀川、平）と新入会者（㈱KDP 金谷様）が紹介された。

### 講演会：

演題：「物流センター投資戦略からアパート経営へ」

講師・内容：田中 信弘 技術士（経営工学部門・総合技術監理部門）

#### 1. 自己紹介

花王株式会社で、28 年間勤務し退社後 50 歳で、コンサル業を始める。現在、70 歳である。

#### 2. 花王株式会社勤務時の経験

- ・新入社員として入社後配属されたところは、花王の自前の流通センターを作ることから始めた。
- ・既に設立されていた販社は、問屋からの抵抗にあい、不買運動を起こされ、花王株式会社は、売上は低迷し減益を余儀なくされていた。
- ・手間（人手）・暇（時間）・金（費用）が掛かりすぎていたが、それを把握しているものは、誰もいなかった。
- ・こんな中、流通センターモデルを作るために現場に出て研究を始めた。T11 パレットに適合するケースサイズ、バーコードシステム、トラック輸送、在庫管理を考慮したモデルにした。
- ・これを行うために、花王株式会社として自前のエンジニアリングを行い、総合物流のモデルを作った。
- ・これを基に、物流効率化 5 年計画を立て全国展開した。
- ・物流拠点から半径 20km 圏を単位として、全国を 150 拠点に整備した。
- ・商品が 2,000 種類以上あるので、ABC 管理での在庫の一元管理と計画輸送（OS システム）を取り入れ、自動倉庫管理を行い、欠品在庫のない効率の良いスペース管理を行った。・スペース生産性を常に考えた管理を行った。

#### 3. コンサル業

- ・スペース生産性を考えた管理方式を、JP（日本たばこ）や丸和運輸機関（マツキヨセンター）で実践して、成果を上げた。
- ・ここでは、物流（納品・出荷・検品管理）について、問屋の商習慣、人材の配置等で、貴重なデータを得ることができた。
- ・また、もの（商品）と出荷伝票は、客先納品時必ず一致していなければならない。当たり前のことを再確認した。このような物流システム作りが重要である。

#### 4. アパート経営

- ・スペース生産性は、アパート経営にも生きてくることを実感した。
- ・それで、このスペース生産性とキャッシュフロー、金融機関からの借り入れ、新規投資をマトリクスにしたアパート経営を行うことを始めた。
- ・那須塩原市、草加市、八潮市で投資物件を購入した。経営は順調に推移している。
- ・税制（減価償却、節税）をよく勉強して、金融機関からの借り入れ投資を行うならば、順調に行く。自己資金もそれなりに必要である。

◆懇親会：4月12日（木）19:30～20:30 出席者 30名 松心会館 大広間

川崎相談役の乾杯の音頭で開催し、藪様の中締めで閉会した。

◆第140回（国内見学会）開催：今年度は、6月7日（木）に開催する。

・見学場所：(株)ダイフク 滋賀事業所・集合場所：12:50までにJR近江八幡駅に集合、



講演の田中様



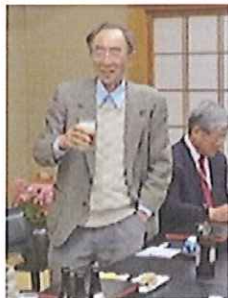
新理事：平田・賀川・平(左から) 新入の金谷様・合格の板垣様(左から)



受講風景（前から）



受講風景（後から）



川崎様の乾杯



交流会風景



藪様の締め